は、本物との出会いというふうに考えます。対馬博物館が持つ一級の歴史資料や展示こそが、その期待に応え、旅の感動を何倍にも膨らませる対馬観光の中心とならなければなりません。

限られた財政状況の中だからこそ、この大河ドラマという最大の追い風を捉え、対馬博物館の価値を１００％引き出す攻めの活用策を迅速に講じていただくことを強く要望したいと思っております。

対馬博物館は、ただ過去の歴史を静かに並べておくためだけに建てられたのではないはずです。まさに今回のように、対馬の国境として歴史的重要性を世に知らしめ、市民の郷土愛を呼び覚ます瞬間のためにこそ、４０億円の税金を投入されたのではないかと考えております。

４０億円をかけて造られた対馬博物館です。また、観光に携わる方々からすると、待ちに待った施設と考えている方々も多いことと思います。博物館建設に対して、場所の選定やかかった費用に対して、様々な意見とか、また、運営に対しても意見があることは承知しておりますが、現時点では、この目の前にある対馬が大河ドラマの舞台になるという、今までにもないようなタイミングもありますので、対馬博物館を対馬の可能性を伸ばす最大限の活用をすることを考えていただいて、前向きに進んでいただいたほうがよいと思いますので、今回の提案をさせていただきました。

これ以外にも、芋崎等の整備現場、現地の整備に関しては、私個人というか、いろんなところといろんな相談をさせていただいております。今後、そういったことをすることもあると思いますし、また、いろんなツールを通して皆さんにも声をかけることがあるかと思いますので、そのときには、海岸の清掃だったりとか、行くまでのルートの整備ということになろうかと思いますけども、そういった機会には皆さんの御協力をいただければと思いますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、私の一般質問は、今回は以上で終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（春田　新一君）　これで、佐伯達也君の質問は終わりました。

○議長（春田　新一君）　昼食休憩とします。再開を午後１時５分からとします。

午前11時38分休憩

午後１時05分再開

○議長（春田　新一君）　再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。７番、安田壽和君。

○議員（７番　安田　壽和君）　皆さん、こんにちは。会派対馬の風の安田壽和でございます。ど

うぞよろしくお願いいたします。

それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。

前回の定例会において、我が会派の佐伯代表が、芋崎砲台跡の保全について質問されましたが、私もその他の砲台跡について質問いたします。

まず、１点目、各地区に残る砲台跡や堡塁跡の中には、樹木が生い茂り、自然植生の進行により石積みの崩壊の危機にある箇所が見受けられます。こうした状況に対し、市としてどのような保全対策を講じていかれるのかお尋ねします。

対馬市は、既に「国境の島壱岐・対馬・五島～古代からの架け橋～」として日本遺産に認定されています。こうした既存の日本遺産ストーリーに、対馬要塞の砲台跡群を新たに構成文化財として位置づけることができれば、国の支援や補助制度の活用にもつながる可能性があると考えます。市長の見解を伺います。

また、対馬が世界に誇る歴史遺産である対馬要塞３１か所の砲台跡については、現在、上見坂堡塁、姫神山砲台跡、豊砲台跡など、一部は観光ルートとして整備されています。特に豊砲台跡は島内の最大の規模を誇り、昭和初期に軍艦赤城の主砲を移設した４０センチ砲座や地下通路、弾薬庫などが良好な状況で残されています。また、姫神山砲台跡には、明治期に築かれた赤レンガ造りの兵舎が残されており、上見坂堡塁跡も、重厚な石積みと優れた眺望を有する貴重な史跡です。

この図は、対馬全体の砲台の博物館のイメージ図です。このように、対馬全体は砲台の博物館ともいうべき、極めて高い歴史的価値を持っています。しかしながら、その他の砲台跡等については、樹木の成長によって石積みの一部が崩れかかっている箇所もあり、早急な対応が必要ではないかと考えます。そこで、市内各地の砲台跡、堡塁跡の保全について、今後、どのように取り組んでいかれるのか、市長のお考えを伺います。

次に、２点目についてです。市内各地の砲台跡や堡塁跡を対馬の宝として、観光誘致と併せて、歴史的遺産としてどのように活用していかれるのか、その対策についてお尋ねします。

ここで、負の遺産を稼ぐ遺産へと転換している他市の事例を紹介します。他市では、軍事遺産を戦略的に活用し、外部からの予算や観光消費を呼び込んでいる成功事例があります。神奈川県横須賀市の猿島は、国の史跡指定を受け、国庫補助を活用しながら、入場料収入による事実的な管理を実現しています。また、和歌山県和歌山市の友ヶ島は、その独特な世界観を発信することで若者を呼び込み、安全対策にも力を入れながら、観光地化に成功しています。

対馬には、これを圧倒する３１か所の砲台跡、堡塁跡という大きなストーリーがあります。一部だけを整備すればよいのではなく、対馬全体を一つの要塞博物館として捉え、島ぐるみで観光誘致と歴史発信を進めていくべきと考えます。世界に唯一無二の価値を持つ対馬の軍事遺産を島

全体で生かす観光誘致策として進めるお考えがあるか、市長の所見を伺います。

次に、２点目の多目的トイレ及びオストメイト対応施設について、利用者から不便を感じているとの声があり、設置対策についてお尋ねします。

まず、１点目として、市内の多目的トイレ及びオストメイト対応施設については、市民のほうから、現状では数が少ないのではないかとの指摘がありました。そこで、現在の配置状況について市長にお尋ねします。

次に、２点目として、今後、多目的トイレ及びオストメイト対応施設の整備をどのように進めていくお考えかお尋ねします。

例えば、市内の中央部では、豊玉神話の里には設置されていますが、豊玉の総合運動公園は、各種の全島的規模の大会が数多く開催されるなど、多くの市民が集まる施設であるにもかかわらず、新設されたトイレには多目的トイレはあるものの、オストメイト対応施設は設置されていません。また、吉田のファミリーパークについても、多目的トイレはあるものの、オストメイト対応施設は設置されていない状況です。このような状況を踏まえ、全島的な視点での配置の見直しが必要ではないかと考えますが、市長の見解を伺います。

また関連として、今後は台風や大雨、災害の発生も想定される中で、各避難所においても、多目的トイレやオストメイト対応施設の整備が必要であると考えます。防災の観点も含め、今後、どのように整備を進めていかれるのか、市長にお尋ねします。よろしくお願いいたします。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　安田議員の質問にお答えいたします。

初めに、市内各地の砲台跡や堡塁跡の保全対策についてでございますが、近代国家形成を目指した明治政府は、１９世紀後半、対馬を本土防衛の最前線と位置づけ、要塞化に着手しました。その結果、明治期に浅茅湾周辺を中心に１８か所の要所に砲台、堡塁が作られました。その後、大正から昭和にかけて、主に島の北部、南部エリアの要所に砲台を１３か所建設しており、その数は３１か所になります。

それらのうち、遺構の残存状態やアクセス等も含め、建築技術や土木工学上、価値が高く、近代史の各分野において、学術研究上、重要な意義を有する遺跡と位置づけられた美津島町緒方に所在する姫神山砲台跡が、平成３１年４月に市の史跡として指定されております。

御質問の砲台、堡塁跡などが崩壊の危機にあり、その保全対策については、市の史跡であります姫神山砲台跡につきましては、市役所職員及び関係団体等による除草作業のほか、地元緒方区と維持管理契約を締結しています。また、樹木の成長により弾薬庫などの各施設に影響を及ぼすと判断された場合は、専門業者に伐採業務を委託して、史跡の適切な管理に努めているところです。

そのほか、城山砲台跡に関しましては、特別史跡金田城跡指定地内に所在し、土地所有者は対馬市であるため、必要に応じて枝打ち、除草作業などを実施しております。

そのほかの砲台跡に関しましては、文化財として未指定であり、土地は公有化されていないため、大半の砲台、堡塁跡の環境整備、管理作業など、基本的には対馬市は行っておりません。

また、今のところ、姫神山砲台跡に続く史跡指定については、具体的な動きはございません。仮に明治２０年代に建設された砲台跡が国指定の史跡となった場合、どのように整備、管理、活用していくのか、専門委員会を立ち上げ、保存活用計画などを策定した後、整備工事や各種調査に着手することになります。加えて、国指定の史跡になったとしても、維持管理に伴う費用は交付されません。

しかしながら、近代における対外防衛拠点として作られた砲台は、文化庁もその価値を認めております。明治期に建設された砲台跡の国指定について、将来的には実現させたいと考えているところでございますが、現在、進行中の国史跡金石城跡、対馬藩主宗家墓所など、複数の国庫補助事業を確実に終えた後、新規事業として立ち上げることを検討しているところでございます。

また、本市の日本遺産、「国境の島壱岐・対馬・五島～古代からの架け橋～」に、砲台跡を構成文化財として追加認定を受けることを検討してはとの御質問がございました。この点につきましては、まず、市役所関係部局におきまして、日本遺産認定時の基本理念に当てはまるのか、ふさわしいのか、検討する必要がございます。その結果を踏まえ、長崎県と協議をしていくのか判断してまいります。

次に、市内各地の砲台群を対馬の宝として、観光客の誘致と併せて歴史的遺産として活用を図るための対策についてでございますが、砲台群を対馬の宝として観光活用していくためには、その歴史的な価値について、特に対馬が古代から明治に至るまで一貫して対馬が果たしてきた役割を含め正しく解説し、理解してもらうことができる環境を整えていくことが必要であります。

そこで、既に砲台跡を中核とした観光体験コンテンツの創出を図っており、その価値と魅力を適切に伝えることができるよう外部の専門家を招聘して、価値の整理、磨き上げを図るほか、令和８年度は砲台跡を周遊するルートの構築、ツアーの造成、必要に応じた案内板の整備に向け、市内の旅行会社、観光物産協会、文化財課、地元歴史研究者などと協力して、基盤整備を進めております。

また、砲台跡や金田城跡、白嶽などを中心に、対馬の本質的な価値を学び、体感することができる観光地の多くが、道が狭く、公共交通が脆弱な地域に所在しているという課題を抱えております。道が分かりづらく、運転が不安といった観光客も増加しており、こうした観光客へ対応するべく、観光ガイドや旅行事業者、交通事業者等が連携するための基盤を構築するため、既に検討しております。また、二次交通の課題解決を図るため、ガイドによる送迎サービスの構築に向

けた実証等の検討も、併せて進めております。

既にこのような取組を始めており、全ての砲台群を活用するのは困難でございますが、遺構が良好に残っている姫神砲台跡や来年の大河ドラマで取り上げられるであろう芋崎砲台跡を活用した優良な旅行商品を開発し、成功事例をまずはつくってまいりたいと考えております。

次に、多目的トイレの設置対策についてでございますが、オストメイト対応トイレは、人口肛門や人口膀胱を増設された方々が、外出先において、安心して日常生活や社会参加を行うために欠かすことのできない設備であり、障害福祉の推進や共生社会の実現の観点からも、重要な役割を担うものであると認識しております。

市が管理運用する施設において、多目的トイレを備えている施設は１０９か所、指定緊急避難場所１０か所において、多目的トイレを備えている施設は5か所となっております。

１点目のオストメイト対応施設の設置状況でございますが、長崎県が公表しております令和５年度末現在の県内設置場所一覧に掲載された１４か所に、直近で設置を確認しました2か所を加え、現在は計１６か所に設置となっております。

続きまして、２点目の今後のオストメイト対応施設の整備についてでございます。

東京オリンピック、パラリンピックを契機として、バリアフリー法及び関係基準の強化が図られ、一定規模以上の建築物について設置基準が引き下げられ、オストメイト対応設備を備えた便房の整備が求められるなど、多機能トイレの機能充実が図られております。

こうした中、豊玉総合公園野球場トイレにオストメイト対応設備を設置しなかった理由でございますが、当該施設の整備に当たりましては、近隣の神話の里自然公園にオストメイト対応トイレが既に整備されていたことから、周辺施設との機能分担を考慮し、当面の本体設備設置は見送ることといたしました。

一方で、将来的な需要の増加や利用者の利便性向上にも柔軟に対応できるよう、施設建設時にあらかじめ配管等の基礎的な準備は整えているところでございます。本市といたしましても、多目的トイレは単に車椅子利用者のためだけではなく、様々な障害特性や身体状況に対応できる機能を備えることが、本来の姿であると認識しております。

また、災害時の避難所や多くの市民等が利用する公園やスポーツ施設などにおいては、重点的な整備が求められます。今後の公共施設の新築や大規模改修に当たっては、オストメイト対応設備を含めた多目的トイレの設置によるバリアフリー機能の確保に努め、誰一人取り残さない社会の実現に向けて、障害のある方をはじめ、全ての方々が安心して利用できる公共施設環境の整備に取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（春田　新一君）　７番、安田壽和君。

○議員（７番　安田　壽和君）　それでは、１点目について再質問をさせていただきます。

今、現状で整備されているところについては、市長の御回答で理解できました。ただ今後、そのほかの部分についても、いろいろ市のほうとしても考えていただきたいというとこがありますので、この写真は、大石浦砲台跡の現状の石垣の状況です。次に、これについても大石浦跡の状況なんです。そして、次に見ていただくこの状況、この写真は、石積みが崩れる要因となっている樹木を地元ボランティア、豊玉の自然と文化を守る会の皆さんが樹木を伐採された状況です。この写真も、伐採作業後の写真です。

今、御覧いただいたとおり、石垣の崩壊は現実に進んでおり、地元ボランティアの皆さんの努力によって、何とか維持されている状況であります。現状は御認識いただいたものと思いますが、このままでは保存ではなく消失につながりかねないと、強い危機感を持っております。

そこで、今後は市民参加による継続的な保全体制の構築、先ほども言われましたけれど、専門家を含めた技術的な保全の仕組みをつくる行政として主体的に進めていく必要があると考えます。市民ボランティアを核として、行政と専門家が連携した保全活動の枠組みを具体的に構築すべきと考えますが、今、指定されている観光ルートになっているもののほかの史跡について市長はどういうふうにお考えか、何か考えてあればお聞かせください。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　市では、この３１か所の砲台、堡塁跡の全体的なアクセスやら、今現在の展望等を調査いたしておりますけども、今、議員が示されました大石浦砲台におきましては、アクセス等が悪路であって、展望等はちょっとなかなか難しいような状況となっております。

こういったところも含めまして、今現在、市では、先ほども答弁をいたしましたように、この砲台等を観光する作業に、今現在、入っているところでございますので、今後また、さらにそういったところのアクセスの関係は簡単にはいかないかもしれませんけども、石垣等の保存の関係等につきましては、再度、さらなる調査を実施いたしまして、できるところから保全に努めてまいりたいというふうに思います。

○議長（春田　新一君）　７番、安田壽和君。

○議員（７番　安田　壽和君）　前向きな検討ありがとうございます。今後、またそういう形で調査をしていただきながら、補修等を予防保全という考えでやっていただければ、経費的にも削減できる、そして、事後保全ということになると、金額的に大きな金額がかかってきますので、そこら辺も考えながら、市も今後、保全に対しての考え方を前向きに考えていっていただきたいと思います。

次に、２点目の観光誘致と併せて歴史的資産としての活用を図る対策についてです。

現在、国道の緒方入り口には、姫神山砲台跡の大きな看板が設置されています。先ほど、市の

指定にされていたということからなのかなと思いました。しかし、集落の入り口には、詳しい案内板が設置がされていない状況です。観光客にとっては、入り口が分かりにくい、情報が不足しているといった状況であり、案内機能が十分ではないといえます。

全ての砲台を一度に整備することは困難であると考えますが、例えば、先ほど言われたように、アクセスのよい上見坂堡塁跡、豊砲台跡、姫神山砲台跡など、アクセスのよく保存状態も良好な箇所を重点整備区域として位置づけ、安全性の確保に加え、おもてなしの視点から、案内板の充実、多言語対応、デジタル化、ＱＲコードや音声ガイダンスなどを進めることは、大きな効果があると考えます。

ここで御覧いただく写真は、これは、緒方地区の上り口の案内板で、もう大分劣化して文字等も見えにくくなっておりますので、そこら辺もまた確認いただきながら、設置なり、看板の建て替えなどをお願いしたいと思います。

次に、これは砲台の入り口案内板です。これは、新しく市の史跡に指定されたということで設置されているのではないかと想定されます。しかし、先ほど言ったように、砲台跡の石積みのこれは現状で、大きな木の根が張って石積みを押し出している状況があります。ですから、市長が先ほども言われたように、点検をしながら伐採などをしていただけたらと考えます。こちらについても同じような状況ですから、よくまた現地を見ていただいて、点検をしていただけたらと思います。

令和８年に作成された第３次対馬市総合計画には、世界に開かれた国境の島として、対馬の歴史や文化が国の宝であると明記されています。さらに目指す未来像として、攻めで、歴史文化を核とした誇れる対馬がつくられると掲げられています。

こうした方針を具体化する取組として、対馬の砲台跡を平和の学びの場と位置づけ、歴史を学びながら観光案内ができる人材、いわゆる観光ガイドを養成し、教育と観光を一体としていく仕組みづくりは非常に有効であると考えます。

観光誘致だけでなく、人材育成や地域の誇りの醸成にもつながる重要な施策と考えますが、これからの教育と観光を結びつけた仕組みづくりについて、市としてどのように取り組んでいかれるか、併せて、市長のお考えをお尋ねします。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　先ほどの質問の中で、確かに案内板等がまだ十分ではないというような御意見がございましたけども、この件に関しましては、さらにちょっとまた調査をいたしまして、そういったところについては、また案内板等を増やしていきたいと思っております。

そして、今、質問のございました教育とこの文化財との関係でございますけども、対馬の子どもたちに対馬の歴史や文化財等を一生懸命勉強をしていただいた上で、広くこれをまた発信がで

きるようにというようなことで、今後の子どもたちのふるさと学習の題材としていければなというふうに思っております。市といたしましても、教育委員会のほうとそこら辺は連携をいたしまして、努めてまいりたいと思います。

○議長（春田　新一君）　７番、安田壽和君。

○議員（７番　安田　壽和君）　前向きな御答弁ありがとうございました。今後また、そこら辺は教育委員会とも協議しながら、ぜひ進めていっていただきたいと思います。

それでは、今後、対馬全体を、先ほども言いましたけども、日本遺産として位置づけていくことは、現実的に難しい面もあると考えます。そのため、例えば対馬を、先ほども市長も言われたように、浅茅湾周辺を中ブロック、上ブロック、そして下ブロックとか、３ブロックに分け、段階的に取り組んでいくことも一つの方法ではないかと思います。

その中の一つを対象として、砲台跡群を日本遺産の構成文化財として追加し、モデル的に整備活用を進めていく、その成果を踏まえながらも、順次、全島へ展開していくという段階的な取組が有効であると考えますが、市長の考えはどうでしょうか、お聞かせいただけたら。

○議長（春田　新一君）　観光推進部長、平間博文君。

○観光推進部長（平間　博文君）　日本遺産、「国境の島壱岐・対馬・五島～古代からの架け橋～」につきましては、対馬の中で１４の遺産が登録されております。

今回、安田議員の提案の砲台跡群を日本遺産に登録ができないかという御質問ですけども、確かにこのストーリーにまず合うかどうかという部分で、文献等が正確に残っているのか、その堡塁跡が、今、対馬島内に３１ありますけども、安田議員が言われるようにブロックごとに登録を試みる、そういったことも可能かなとは思いますが、まずは、壱岐・対馬・五島で構成されております長崎県が窓口になりますんで、まず、対馬の中で、どういった部分で日本遺産に登録ができるのかという内部の検討が行われ、その後に、県のほうに協議、最終的には文化庁の許認可、認可になると思いますんで、その分については、先ほど市長が答弁したように、まずは内部での調査、研究をしてみたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（春田　新一君）　７番、安田壽和君。

○議員（７番　安田　壽和君）　今、部長のおっしゃったことも理解しておりますけれども、ですから、先ほど言ったように、新たなものは難しいと思いますけれども、追加という形で申請する形もあるというようなことで私もちょっと調べておりますので、そこら辺も考えながら、できたら追加的なもので、遺産ということで国の補助等が出てまいりますので、そこら辺もすれば、市の財政も厳しい中で、少しでも保存ができていくのではないかと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりますが、対馬が持つ歴史的価値を点ではなく面で生かし、観光と教育の面から活用していくために、こうした進め方について、ぜひ積極的な検討をお願いして、私の質問を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

○議長（春田　新一君）　以上で、安田壽和君の質問は終わりました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○議長（春田　新一君）　本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後１時48分散会